

愛知みずほ大学シラバス作成要項

2025度版

1. はじめに

2025 年度シラバスを作成するにあたりまして、2024 年度シラバスの内容を初期情報として登録させていただいております。

シラバスを作成する際は「学位授与の方針との関連」にご留意いただき、作成をお願いいたします。

令和2年4月から高等教育の修学支援新制度が施行されたことに伴い、シラバスに実務経験のある教員（本学に就任前の経歴で大学等の教員以外の経歴を有する者）による授業科目であることを表記することになりました。詳細は、p. 8「18. 実務家教員と当該授業科目の関係性について」をご参照ください。

最終ページにシラバス（セルフ）チェックシートを用意させていただいておりますので、シラバスをご提出する前に、今一度ご確認くださいませよう、お願いいたします。

2. シラバスレイアウト

みずほ学

更新日：2024/12/18 16:14:30

開講年度	2025	学期	前期	科目コード	2K304020	授業コード	
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	2	
	備考(配当)						
科目ナンバー	B0000	授業形態	講義	授業時間＋自習時間	30+60		
コース別 必修・選択必修等	必修						
本授業科目に関連する実務経験（職歴）の有無	有	関連する履歴					
実務経験と本授業との関係性及び授業にもたらす効果							

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係

	関係性	大分類	小分類
1	△	知識・理解	身体の健康を理解し、説明することができる。
2	△	知識・理解	心の健康を理解し、説明することができる。
3	△	知識・理解	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係

①知識・技術(2024)	身体 の健康を理解し、説明することができる。		
	心の健康を理解し、説明することができる。		
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		○
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		
③態度・志向性(2024)	目標をかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		
	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	
⑤専門分野の能力(2024)	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			

授業概要

内容	豊かな教養は「幅広い視野もち、地域に根ざして行動する」ための素養となる。本講義では世界的な歴史観をもとに、地域の歴史観との違い、瑞穂地区における健康教育のありかたについて考える。新たな健康教育について真剣に学ぶにはどのような準備や態度が必要であるかを学習し、瑞穂学の魅力を探る。
方法	教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。随時グループディスカッションを行う。 多様なテーマについて自ら調べ学んだことを毎回レポートにして提出することを求める。

履修条件

心身健康論及び行動科学概論の単位を修得していること。

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

到達目標

1	瑞穂学を学修する上で必要な基本概念、および基礎知識を説明することができる。
2	瑞穂学の基礎となる文献の成立と科学的背景を理解し、図画・伝承・口伝から必要な情報を読み取る技能が身についている。
3	学修した情報を整理・要約することができる。
4	情報を整理・分析し、考察し論述することができる。

評価方法

	評価方法	割合
1	到達目標 小テスト	10
2	到達目標 中間レポート	20
3	到達目標 定期試験	60

教科書

書籍名	出版社	著者
1 瑞穂学の歴史	瑞穂書店	愛知 瑞穂

参考書

書籍名	出版社	著者
1 瑞穂史	瑞穂書店	愛知 瑞穂

オープンな教育リソース

瀬木学園「学園の80年」・公式HP

<https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/aboutus/memory.html>

このページ資料は授業の中で多く使います。

愛知みずほ大学・公式HP

<https://www.mizuho-c.ac.jp/>

学生へのメッセージ

愛知みずほ大学は1993年に開学したばかりの新しい大学です。しかし、学園全体の歴史は1939年までさかのぼります。様々な卒業生や教職員が、この学校の発展に尽くしてきました。なぜ、これほど長い歴史を有することができたのか、そしてこれからどのように発展していくのか、在学生である受講生の皆さんとともに、この大学の設計図を描いていきたいと思ひます。この授業が、充実した学生生活の出発点となることを願っています。

課題に対するフィードバック

提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

授業計画

	学修計画		
	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
1	「授業の内容と進め方」と「評価方法と試験」の説明、「講義で行う瑞穂学について」の簡単紹介	教科書をよく読みこの授業で取り組む学修内容について理解し、その内容をまとめ次回提出。	A, C
2	瑞穂学の背景 過去の経緯と成果を整理し、基本的な事項と概念枠組みを理解する。	教科書をよく読み、瑞穂学が形成されまでの経緯について、重要点をまとめ次回提出。	A, B
3	医学・医療に携わった瑞穂学者の生涯と業績	第3回授業の感想を400字以内にまとめ次回提出。	A, C
4	政治・経済に携わった瑞穂学者の生涯と業績	第4回授業の感想を400字以内にまとめ次回提出。	B, D
5	文化（食・芸術）に携わった瑞穂学者の生涯と業績	第5回授業の感想を400字以内にまとめ次回提出。	B, D
6	瑞穂学の歩みを、その歴史的背景に注目しながら学修する。	瑞穂学の歩みについて、気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A
7	「地域社会とのかかわり」について学修することによって、瑞穂学的側面をもつアプローチの仕方を学修する。	自身が取り組む地域社会へのアプローチを400字以内にまとめ次回提出。	A
8	私達が生活する地域がどのように形成されるのか、瑞穂学的側面をから学修する。	総務省HPにアクセスし、人口動態総覧の年次推移を調べ、気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A, B
9	瑞穂学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒しについて学修する。	厚生労働省HPにアクセスし、人口動態総覧の年次推移を調べ、気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A, B
10	瑞穂学と環境、科学技術の新たな関わり方について広く学修する。	環境省、科学技術省のHPアクセスし、環境汚染とに対する科学的アプローチについて気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A, B
11	瑞穂学における、人間の位置、人間の成長、自由と人生の意味について学修する。	あなたにとっての、人間の成長と自由についてまとめて次回提出	A
12	瑞穂学は人の生き方、健康について何が云えるか学修する。	あなたが推奨する運動不足解消法とその推奨理由についてまとめて次回提出	A
13	瑞穂学に基づいた、思想における自然観／生命観を学修する。	あなたにとっての、自然観と生命観についてまとめて次回提出	A
14	瑞穂学を中心に、マネジメントの原則と雇用管理・労働問題への係りについて学修する。	総務省のHPにアクセスし、GDP、消費者物価指数等の年次推移を調べ、気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A
15	瑞穂学のまとめ。		
16	定期試験		

3. Active Portal へログインする

シラバスを入力するには Active Portal にログインする必要があります。次のアドレス「<https://mizuho-c.ap-cloud.com/login>」より Active Portal にアクセスしログインしてください。

<画面イメージ>

The image shows the login page of the Active Portal. At the top, there are logos for Mizuho University (愛知みずほ大学) and Mizuho College (愛知みずほ短期大学). Below the logos, there are two input fields: 'ログインID' (Login ID) and 'パスワード' (Password). Under the password field, there is a checkbox labeled 'ログイン状態を保持する' (Keep login state). At the bottom, there are two buttons: a blue 'ログイン' (Login) button and an orange 'リセット' (Reset) button. Below the buttons, there is a link that says 'パスワードを忘れた方はこちら' (Click here if you forgot your password).

<Active Portal アドレス>

<https://mizuho-c.ap-cloud.com/login>

<ログイン ID>

本学より事前にご案内しました、ログイン ID を入力してください。

<パスワード>

本学より事前にご案内しました、パスワードを入力してください。

- ・ログイン ID、パスワードを入力後、【ログイン】ボタンをクリックしてください。

※ログイン ID、パスワードがご不明の場合(忘れた場合も含む)は、教務・学生室までご連絡ください。

4. シラバス選択画面に移動する

Active Portal のメニュー画面より【シラバス登録】ボタンをクリックし、登録するシラバス選択画面に移動します。

※【シラバス登録】ボタンは、シラバスの登録期間内のみ表示されます。

<画面イメージ>

The image shows the main menu of the Active Portal. At the top, there is a green header bar with the 'Active Portal' logo, a '設定' (Settings) dropdown, and language options '日本語' and 'ENG'. On the right side of the header, there is a 'ログアウト' (Logout) button. Below the header, the user's name 'A2022xxx 愛知 瑞穂' is displayed. The main content area is divided into several sections. On the left, there is a '掲示板' (Bulletin Board) section with options like 'メッセージ' and 'メッセージ登録'. In the center, there is a '授業支援' (Classroom Support) section with options like '履修登録シミュレーション' and 'レポート管理'. On the right, there is a 'Web出欠管理' (Web Attendance Management) section with options like '出席簿' and '出欠登録'. At the bottom, there is a 'シラバス' (Syllabus) section with a 'シラバス登録' (Syllabus Registration) button, which is circled in red. There are also links for 'シラバス' and 'シラバス登録' in the '授業支援' section. At the bottom of the page, there are two sections: '掲示板' (Bulletin Board) and '休補講・教室変更' (Makeup/Lecture Change), both with '一覧へ' (View All) links.

5. シラバス選択画面に移動する

登録可能なシラバスの一覧より、登録を行うシラバスの右端にある【編集】ボタンをクリックし、シラバスの内容確認画面を表示します。

<画面イメージ>

AsM 愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学									
ダッシュボード	編集担当シラバス								
学生検索	公開シラバス一覧								
評価	開講年度	開講学期	科目名	シラバスコード	学年	学部・学科	状態	入力開始日	入力終了日
授業検索	2022	前期	[2K304010] 瑞穂史	2K304010		[2-D1] 大学 人間科学部	未提出		
DP達成度									更新日 2022/11/29 10:51
拡張機能									
シラバス									

6. シラバス選択画面に移動する

シラバスの内容確認画面の左上にある【編集】ボタンをクリックし、シラバス編集画面に移動します。

<画面イメージ>

シラバス詳細

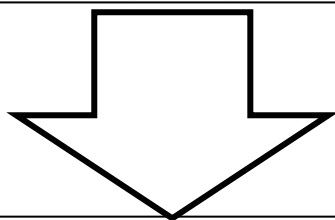
このシラバスは **未提出** の状態です。

操作

無効

瑞穂学

開講年度	2023	学期	前期	シラバスコード	2K304020	科目コード	2K304020
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	



シラバス編集

このシラバスは **未提出** の状態です。

更新日: 2022/11/29 12:45:20

瑞穂学

開講年度	2023	学期	前期	シラバスコード	2K304020	科目コード	2K304020
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	

7. 変更不可項目について

科目の初期情報として、以下の項目は本学にて予め入力させていただきます。以下の項目は修正することはできませんのでご承知おきください。

＜画面イメージ＞

[戻る](#)
このシラバスは **未提出** の状態です。

一時保存

提出

瑞穂学

更新日：2024/12/18 16:14:30

開講年度	2025	学期	前期	科目コード	2K304020	授業コード	
担当教員	愛知 瑞穂						
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—		単位	2
	備考(配当)						

1	授業名	授業の名称	6	担当教員	授業担当教員の氏名
2	開講年度	対象となる年度	7	配当	学部/学科 対象となる学部・学科等
3	学期	授業が開講される学期	8		配当時期 主な対象となる学年
4	シラバスコード	シラバスの識別コード	9		曜日/時限 空白です
5	科目コード	科目の識別コード	10		単位 科目の単位数

8. 本学で予め入力させていただく項目

科目の初期情報として、以下の項目は本学にて予め入力させていただきます。ただ、**システムの都合上修正可能な状態になっておりますが、決して修正しないようにしてください。**

※もし、修正確認された場合、本学にて訂正させていただきます。

＜画面イメージ＞

科目ナンバー	B0000	授業形態	必須 講義	授業時間+自習時間	必須 30+60
コース別 必修・選択 必修 等	必修				

2023年度以前の入学生向け、学位授与の方針との関係			
≡ をドラッグして移動することで並び替えができます。			
関係性	大分類	小分類	
≡ 1 △	必須 知識・理解	必須 身体の健康を理解し、説明することができる。	✕
≡ 2 △	必須 知識・理解	必須 心の健康を理解し、説明することができる。	✕
≡ 3 △	必須 知識・理解	必須 多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。	✕
+ 項目を追加する			

2024年度以降の入学生向け、学位授与の方針との関係			
①知識・技術(2024)	身体を健康を理解し、説明することができる。		<未選択>
	心の健康を理解し、説明することができる。		<未選択>
	多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。		O
②汎用的能力・技能(2024)	科学的思考を育成する基礎として課題を発見する力、論理的に考え判断する力を身につけている。		<未選択>
	科学的思考を実践するためのツール活用力を身につけている。		<未選択>
	様々な出来事に対する疑問を主体的かつ論理的に解決する力を身につけている。		<未選択>
③態度・志向性(2024)	目標をきっかけ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。		<未選択>
	自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。		<未選択>
	健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。		<未選択>
④総合的活用(2024)	社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。		<未選択>
	生涯を見据えて健康について自分なりの考えを確立させ、他者や社会に向けて発信できる。		<未選択>
⑤専門分野の能力(2024)	養護・保健コース：	心身と疾病に関する基礎知識を有し、身体と心の健康づくりをサポートできる。	<未選択>
	健康スポーツコース：	運動・スポーツ及び健康に関する基礎的・専門的知識や指導力を有し、科学的思考を基に健康づくりをサポートできる。	<未選択>
	心理・カウンセリングコース：	「心」についての科学的な知識を修得し、「心の健康」を育成・発展させる実践力を持ち、それらの知見を活用して健康な社会の実現のために貢献することができる。	<未選択>
	健康科学コース：	健康な社会の在り方を深く理解し、健康な社会の実現のために科学的根拠に基づいた実践力を発揮できる。	<未選択>
教員免許状取得にあたり、教職に必須の知識、技能を身につける。(2024)			<未選択>

1	科目ナンバー	科目の順位制を示す番号
2	授業形態	授業の形態（講義、演習、実習等）
3	コース別必修・選択必修等	学科、コースの必修、選択必修等 空白の場合は選択科目
4	授業時間＋自習時間	授業時間及び自学自習時間
5	学位授与の方針との関係 (2023 年度以前の入学生向け)	学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関係性 シラバス入力の際は、この内容にご留意いただき入力願います。
6	学位授与の方針との関係 (2024 年度以降の入学生向け)	学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関係性 シラバス入力の際は、この内容にご留意いただき入力願います。

9. 実務家教員と当該授業科目の関係性について

- ① 実務経験の有無について、ご回答ください（「有」もしくは「無」と記載）。
- ② 実務経験がある場合は、「関連する職歴」と「実務経験と本授業との関連性及び授業にもたらし効果」に詳細を記載してください。
- ③ 実務経験がない場合は、「関連する職歴」と「実務経験と本授業との関連性及び授業にもたらし効果」を空欄としてください。

【記載時の注意点】

- ① 実務家としての経験が、当該授業科目にどのように活かされているのか、授業との関連性が学生に理解できるような表記で「実務経験と本授業との関連性及び授業にもたらし効果」の詳細を記載してください。
- ② 実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は、「有」とは記載できませんのでご注意ください。

<実務経験の例>

実務経験の一覧
教員養成課程の授業科目を担当する教員で、初等中等教育の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）教員の勤務経験を有する者
官公庁（独立行政法人、国立研究開発法人などを含む）の勤務経験を有する者
民間企業（企業の研究所を含む）の勤務経験を有する者
非営利団体の勤務経験を有する者
自営業である、あるいは自営業であった者
臨床系の国家資格（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士など）を有し、臨床系の勤務経験を有する者
上記以外の勤務経験を有する者（専修学校、保育士など）

<記載例>

本授業科目に関連する実務経験（職歴）の有無	有	関連する職歴	民間テニスクラブにて、テニスコーチとして勤務。
実務経験と本授業との関連性及び授業にもたらし効果	テニスコーチとして、初心者から競技者まで幅広いレベルのテニスプレーヤーを指導した経験から、受講者のレベルに応じた段階的な指導を実践する。各学生のレベルに応じた指導を実施することで、より主体的かつ効果的にテニスの技術習得を目指すことが期待できる。		

10. 履修条件の記入について

ナンバリング（履修の順序、科目ナンバー）に基づいて、既修すべき科目（高等学校までの授業内容の復習を含む）がある場合や、履修人数に上限を設定したい場合は、ここにご記入ください。

※前提とする科目を追加等、カリキュラムに関係する内容を追加する場合は、事前に本学教務・学生室にご相談ください。独自の判断で追加する等はおやめください。

＜画面イメージ＞

履修条件
心身健康論（または、健康科学概論）及び行動科学概論の単位を修得していること。

＜記入例＞

《履修人数に上限を設定したい場合の記入例》

安全配慮から xx 人まで

※人数制限に関しては、教室等の施設のキャパシティより、本学にて別途設定させていただく場合がありますのでご承知おきください。

《資格によって学生を制限する場合の記入例》

教職課程（保健体育）に登録している学生を優先とする。

教職課程に登録している学生のみとする

以下の制限を行う場合は、カリキュラムに関係しますため事前に本学教務・学生室にご相談ください。

《履修する上で特定の科目の単位を修得していない学生の履修を認めない場合の記入例》

○×科目の単位を修得していること。

《特定の科目の単位を修得していない学生であっても履修は認めるが、当該科目の知識を有する必要がある場合の記入例》

○×科目の単位を修得していることが望ましい。または、同時に履修していること。

1 1. 履修する上の留意点の記入について

履修条件としないが留意する事項がある場合、実習費等が別途発生する場合、資格等の取得を目指す学生を対象とした科目の場合、履修するにあたって予め準備するものがある場合等は、ここに記入してください。

＜画面イメージ＞

履修する上の留意点
毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

＜記入例＞

《履修条件としないが留意する事項がある場合の記入例》

- ・〇×学についての知識が十分にある者
- ・〇×科目の単位を修得していることが望ましい

※こちらに記載した場合は、システム上の制限は発生しません。

《教科書以外に別途費用が発生する場合の記入例》

- ・学外見学等を実習費 xxxx 円が必要となります
- ・資格試験・講習等の受講に xxxx 円が必要となります

《資格等の取得を目指す学生を対象とした科目の場合の記入例》

- ・〇×資格取得を目指す学生の履修が望ましい

《履修するに予め準備するものがある場合の記入例》

- ・体育館シューズを準備すること

1 2. 授業概要の記入について

授業科目の内容と、授業を行う方法についてご記入ください。

＜画面イメージ＞

授業概要	
内容	豊かな教養は「幅広い視野もち、地域に根ざして行動する」ための素養となる。本講義では世界的な歴史観をもとに、地域の歴史観との違い、瑞穂地区における健康教育のありかたについて考える。新たな健康教育について真剣に学ぶにはどのような準備や態度が必要であるかを学習し、瑞穂学の魅力を探る。
方法	教科書に基づいてパワーポイントを用いて講義を行う。随時グループディスカッションを行う。多様なテーマについて自ら調べ学んだことを毎回レポートにして提出することを求める。

(1) 授業科目の内容の記入について

授業の概要、授業の目的はここにご記入ください。

※記入にあたっては、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）及び、カリキュラム・ポリシーの内容にご留意ください。

(2) 授業を行う方法の記入について

授業を行う具体的な方法について記入してください。特に**アクティブ・ラーニング（能動的学修）**や**ICTを取り入れた授業を行っている場合はその手法も具体的にご記入**ください。

【アクティブ・ラーニングの例】

「17. 学修計画の記入について (3) アクティブ・ラーニングの実施について」に示すアクティブ・ラーニングの要素を含む授業方法を参考に記載するとともに、実際に実施する授業回の「学修内容」欄及び「アクティブ・ラーニングの実施方法」欄にも記載してください。

<記入例>

《授業方法の記入例》

- ・グループでの〇〇実践の事例検討やロールプレイなどによって、〇〇〇における諸問題や支援について理解を深める。
- ・パワーポイントを用いて講義を行い、個人ワークやディスカッションをしながら、〇〇の必要性について学ぶ。講義の最終日には、各班、プレゼンテーションを行う。
- ・教科書及び授業プリントに基づき講義を行う。提出レポートを用いて、グループワークもしくはペアワーク・発表・意見交換等を行い、〇〇〇について考察する。
- ・講義を主に行うが、グループワークやディスカッションなども取り入れ、知識の共有を図る。

「教学マネジメント指針」(令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会) 用語解説から抜粋

大学等におけるアクティブ・ラーニングとは、一方向性による知識伝達型の学習方法ではなく、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。

学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ICTを活用した例】

授業内でパソコン、タブレット端末、電子黒板やクリッカー機能等を活用し、教員と学生あるいは学生間での交流を生み出すような双方向型授業を実施している場合、その旨を明示してください。

また、ICTを活用した自主学習支援(みずほドリル、e-ラーニングシステム等)を行っている場合も記載してください。(自主学習支援として記載の場合、大学が学生の学習状況を把握していることが条件となります。)

<記入例>

《授業方法の記入例》

- ・収集した資料や撮影した画像を加工・編集して、プレゼンテーション用資料を作成する。
- ・授業において、タブレット端末等を使って発表の様子を録画し、観点に沿って振り返ることで課題を見つけ、改善してゆきます。
- ・Microsoft Formsを使い、毎回小テストを実施する。
- ・事前学習用の講義資料を〇日前にTeamsに掲載するので、授業前までに確認しておくように。
- ・授業の理解度を「アンケート機能」を使い把握します。
- ・Active Portalの「レポート機能」を使ってWord形式で課題を提出してもらいます。

1 3. 到達目標、評価方法、割合の記入について

成績評価の基準を示すものとして、到達目標と評価方法、割合をご記入ください。

(1) 到達目標の記入について

<画面イメージ>

①履修を通して到達すべき目標の内容を具体的にご記入ください。

授業を修了した段階で、できるようになってほしい行動を、学生を主語にして「○○できる」という表現で示してください。

また、到達目標は「知識・技術の獲得」に限らず、「態度」や「技能」の領域に及ぶ授業科目もあります。

②到達目標は最大 6 目標が設定できます。到達目標を追加する場合は【項目を追加する】

(上記画面イメージの青枠で囲まれた箇所) ボタンをクリックしてください。到達目標を削除する場合は、各到達目標の右側にある【×】(上記画面イメージの赤枠で囲まれた箇所) アイコンをクリックしてください。到達目標の順番を入れ替える場合は、到達目標欄左側の数字の上の【三】(上記画面イメージの緑枠で囲まれた箇所) をドラックすることにより移動することが可能です。

※到達目標は 500 文字以上入力することはできません。

(2) 評価方法と割合の記入について

①各到達目標に対応する評価方法と、評価の割合をそれぞれご記入ください。

複数の到達目標を同一の評価方法で評価する場合であっても、**必ず、到達目標に対して 1 : 1 になるように評価方法と、評価の割合をご記入ください。**

なお、**評価の割合欄は必ず整数で、評価割合の合計が 100 となる様に、ご記入ください。小数点や%等の入力はお控えください。**

②出席は単位修得の前提の条件であるため、出席点を加算することは望ましくありません。

出席率、出席点といった内容での評価の記入はお控えください。

③平常点を評価する場合であっても、出席点での加算となる様な表現はお控えください。

④評価方法を追加する場合は【項目を追加する】(上記画面イメージの青枠で囲まれた箇所) ボタンをクリックしてください。評価方法を削除する場合は、割合項目の右側にある【×】

（上記画面イメージの赤枠で囲まれた箇所）アイコンをクリックしてください。評価方法の順番を入れ替える場合は、評価方法欄左側の数字の上の【三】（上記画面イメージの緑枠で囲まれた箇所）をドラックすることにより移動することが可能です。

<画面イメージ>

	評価方法	割合
1	到達目標 小テスト	10
2	到達目標 小テスト	10
3	到達目標 中間レポート	20
4	到達目標 定期試験	60

+ 項目を追加する

<記入例>

《評価方法の記入例》

【授業態度】、【小テスト】、【自主学習態度】、【レポート】、【プレゼンテーション】

【定期試験】 ※試験、テスト、定期テスト、筆記試験の記載は定期試験で統一願います。

【作品】、【成果発表（口頭・実技）】等

《割合の記入例》

良い例 … 60 誤った例 … 60% … 60.5 … 6割

1.4. 教科書・参考書の記入について

(1) 教科書の記入について

授業で使用する教科書を具体的にご記入ください。

授業での使用頻度が高く購入しなければ授業に支障が生じるもののみ指定してください。

<画面イメージ>

	書籍名	出版社	著者
1	瑞穂学の歴史	瑞穂書店	愛知 瑞穂

+ 項目を追加する

①教科書等を使用しない場合であっても空欄とはせず、「なし」、「特になし」、「使用しない」と等、不要であることが分かる内容をご記入ください。

②授業で教科書を使用する場合は、教科書をなるべく具体的（書籍名、出版社、著者）にご記入してください。出版社、著者が解らない場合は空白でも問題ありません。

③授業では教科書使用せず配布プリント等で行われる場合は、その旨ご記入ください。その際は、出版社、著者は空白としてください。

④教科書を複数ご利用される場合は、【項目を追加する】（上記画面イメージの青枠で囲まれた箇所）ボタンをクリックして、教科書の情報を入力してください。教科書を削除する場合は、著者の右側にある【×】（上記画面イメージの赤枠で囲まれた箇所）アイコンをクリックしてください。教科書の順番を入れ替える場合は、教科書欄左側の数字の上の【三】（上記画面イメージの緑枠で囲まれた箇所）をドラックすることにより移動することが可能です。

⑤教科書としてされた書籍の手配は大学側で行います。

（２）参考書の記入について

授業内容をより深めるための書籍や、学生の自学自習に役立つ書籍を具体的にご記入ください。

<画面イメージ>

参考書			
≡をドラッグして移動することで並び替えができます。			
	書籍名	出版社	著者
≡ 1	必須 瑞穂史	瑞穂書店	愛知 瑞穂
+ 項目を追加する			

①記入方法等は教科書と同じですので、教科書の記入方法を参照願います。

②参考書に指定された書籍は、教科書販売時には販売いたしませんので、ご承知おきください。

15. オープンな教育リソースの記入について

授業の教材等として利用又は自主学習教材として学生に活用して欲しい、オープンな教育リソースとして提供されている教材（インターネット上の公開されている学習コンテンツ、教育ソフトウェア等）を記入してください。

<画面イメージ>

オープンな教育リソース
瀬木学園「学園の80年」・公式HP https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/aboutus/memory.html このページ資料は授業の中で多く使います。
愛知みずほ大学・公式HP https://www.mizuho-c.ac.jp/
これら大学や学園のHPをすみずみまでチェックしておいてください。

<記入例>

- ・ 日本〇〇学会『〇〇学って何だろう』
<https://.....//〇〇〇〇/◇□△□/index.html>
- ・ JMooc 講座 「GIGA スクール構想の実現に向けて」
<https://www.sainou.or.jp/senseimanabi/course/21103.html>
- ・ JMooc 講座 「プログラミング教育が目指すもの」
<https://www.sainou.or.jp/senseimanabi/course/210608.html>
- ・ JMooc 講座 「英語力をアップさせる指導法」
https://www.sainou.or.jp/senseimanabi/course/210318_2.html

16. 学生へのメッセージの記入について

学生に伝えたいことメッセージ等がありましたら、ここにご記入ください。

<画面イメージ>

学生へのメッセージ
愛知みずほ大学は1993年に開学したばかりの新しい大学です。しかし、学園全体の歴史は1939年までさかのぼります。様々な卒業生や教職員が、この学校の発展に尽くしてきました。なぜ、これほど長い歴史を有することができたのか、そしてこれからどのように発展していくのか、在学生である受講生の皆さんとともに、この大学の設計図を描いていきたいと思っています。この授業が、充実した学生生活の出発点となることを願っています。

<記入例>

- ・ 主体的に行動することを望みます
- ・ 毎時間レポート課題がありますが、熱意をもって取り組みましょう
- ・ 資料の予備は保管しません。出席者同士でコピーすること。

17. 課題（学修内容）に対するフィードバックの記入について

本学では全ての科目においてフィードバックを実施することと致しました。但し、本学によるフィードバックの考えは、学生のアウトプット（試験、レポート、作品、発話等）に対する教員の反応、評価だけでなく、前回授業内容の振り返り等も含めています。

実施するフィードバックの内容を「課題に対するフィードバック」の欄に具体的に記入してください。

レポート課題については、可能な限り、授業担当教員ご自身が直接学生へ返却することを原則とし、個々のフィードバックをお願いします。

<画面イメージ>

課題に対するフィードバック
提出された課題に対し、意見交換及び講評を行う。

<記入例>

- ・ 予習確認テストに関しては、テスト終了後に解説を行い、後日採点して返却する。
- ・ 実習とグループワーク課題に関しては、授業中に巡回して指導を行う。
- ・ 毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。
- ・ 授業終了時に回収したコメントシートについて、重要なコメントを抜粋し、次回授業でクラス全体に向けて回答を共有する。

18. 学修計画の記入について

各授業回の学修内容及び、学修課題を入力してください。

<画面イメージ>

授業計画

≡をドラッグして移動することで並び替えができます。

学修計画	学修内容	学修課題（予習・復習）の内容	アクティブ・ラーニングの実施方法
1	「授業の内容と進め方」と「評価方法と試験」の説明、「講義で行う瑞穂学について」の簡単紹介	教科書をよく読みこの授業で取り組む学修内容について理解し、その内容をまとめ次回提出。	A, C
2	瑞穂学の背景 過去の経緯と成果を整理し、基本的な事項と概念枠組みを理解する。	教科書をよく読み、瑞穂学が形成されまでの経緯について、重点点をまとめ次回提出。	A, B
3	医学・医療に携わった瑞穂学者の生涯と業績	第3回授業の感想を400字以内にまとめ次回提出。	A, C
14	瑞穂学を中心に、マネジメントの原則と雇用管理・労働問題への係りについて学修する。	総務省のHPにアクセスし、GDP、消費者物価指数等の年次推移を調べ、気づいたこと、感想をまとめて次回提出	A
15	瑞穂学のまとめ。		<未選択>
16	定期試験		<未選択>

+ 項目を追加する

(1) 学修内容の記入について

- ①授業は、半期（前期あるいは後期）15回以上、通年は30回以上、クォーターは8回以上の内容をご記入ください。
- ②上記の回数には試験（定期試験、中間試験等）のみの回は含めませんので、ご承知おきください。
- ③定期試験は最終授業の次の回（半期科目であれば16回目）にご記入ください。
- ④各回で行う予定の具体的な授業テーマや内容をご記入ください。

⑤連続して同じテーマで講義を行う場合、以下の「各回の授業内容の記入時の注意事項について」に従ってご記入ください。

⑥集中講義についても半期 15 回の設定で授業計画をご記入ください

⑦授業を追加する場合は【項目を追加する】（上記画面イメージの青枠で囲まれた箇所）ボタンをクリックしてください。授業を削除する場合は、アクティブ・ラーニング欄の右側にある【×】（上記画面イメージの赤枠で囲まれた箇所）アイコンをクリックしてください。授業の順番を入れ替える場合は、授受欄左側の数字の上の【三】（上記画面イメージの緑枠で囲まれた箇所）をドラックすることにより移動することが可能です。

<各回の授業内容の記入時の注意事項について>

・連続して同じテーマで講義を行う場合、それぞれの各回の詳細を必ずご記入ください。同じテーマでⅠ、Ⅱといった表現はお控えください。

例	×	第 6 回	事例研究Ⅰ	○	第 6 回	事例研究Ⅰ（西洋における…）
		第 7 回	事例研究Ⅱ		第 7 回	事例研究Ⅱ（日本における…）
		第 8 回	事例研究Ⅲ		第 8 回	事例研究Ⅲ（現在の…）

・授業内容を作成する際は、評価方法との整合性（評価方法欄に記載された内容が、授業内容に反映されているか）等にご注意ください

例 評価方法の欄に定期試験があるのに授業計画に定期試験がない、又はその逆等

（２）学修課題（予習・復習）の内容の記入について

各回で行う授業内容に関して、事前に自学自習してくる課題または学修内容について、学生にどのようなことを行うことを求めているのか、具体的にご記入ください。

<学修課題（予習・復習）の内容記入に関して、ご留意いただきたいこと>

「単位制」に関して本学では、学則第 21 条(単位の計算方法)において、以下の通り定めています。

各授業科目の単位は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 以下省略

現行カリキュラムでは、大部分の講義及び演習科目を、2 単位即ち 90 時間の学修を必要とする内容で構成することとしています。その内の 30 時間分（全学修内容の三分の一）を授業内学修分（毎週 1 コマ・2 時間×15 週）としています。（実際には、90 分×15 週＝

1, 350 分=22.5 時間で 7.5 時間不足するが、慣例で 30 時間としている。)

従って、「学修計画」欄の右欄「自学自習課題・内容」では、残りの 60 時間の学修を必要とする内容を自学自習課題・内容として課して頂くようお願いします。例えば、毎回 4 時間程度の学修を必要とする新たな内容を課して頂くことになります。課す以上は、その実（成果）を担保できる仕組みとして、レポート・ディスカッション・定期試験等をお考えください。当然のことながら、授業の時間はこの中に含めません。これらを踏まえたうえでご記入ください。

《具体的な記入例》

- ・「○×△□について調べレポートに纏める」 → 「○×△□について調べ、レポートに纏め提出する」（評価方法にレポートの項目を記入する必要があります。）
- ・「○×△□について調べておくこと」 → 「○×△□について調べ、定期試験に備える」（評価方法に定期試験の項目を記入する必要があります。）
- ・「自学自習課題の成果は、小テスト、小論文にて評価する」、「自学自習課題の成果については、授業に取り組む姿勢、学修の到達度にて評価する」等を記入する。

(3) アクティブ・ラーニングの実施について

本学では全ての科目においてアクティブ・ラーニングを全授業回数の 1/3 以上実施することと致しました。但し、極端に一方向的な講義形式でなければスタイルに捉われることなく、少しでも学生との関わりを持ち学修への参加を促す工夫があれば、その教育方法が本学の称するアクティブ・ラーニングとなります。適宜、学生に質問したりすることで、学生の理解度を把握する等の取り組みもアクティブ・ラーニングと捉えており、柔軟な対応をお願いします。アクティブ・ラーニングを導入する予定の授業回（**※全授業回数の 1/3 以上**）の「アクティブ・ラーニングの実施」の欄に、以下の A、B、C、D に分類された方法から実施内容を選択してください（複数選択可、入力例：A, C）。

分類： A. 教員と学生による双方向的な対話	
方法	説明
質問法（Q&A）	教員が問いを投げて学生の回答を引き出し、両者の問答を繰り返すことによって、学生が自ら正しい答えに到達できるように導いていく手法
ミニッツ・ペーパー	授業時に配布し、学生に授業のポイントや疑問、理解度、評価などを数分で記入させ回収する手法
クリッカー	ICT 機器（スマートフォン、PC 等）を使用して、学生が意思を表示する手法（Microsoft Teams、Google Form 等活用）
EQ トーク	講義の時間に、教材に「いいね」「共感する」「大事」と思ったところに「！」を書き入れ、「疑問」「反論」「もっと知りたい」と思ったところに「？」を書き入れることを指示する手法
その他の手法	

分類: B. 学生が複数名(3人以上)で行うグループワーク	
方法	説明
ディスカッション (討議法)	テーマを設定し、グループでの議論・討論を通して理解を深める手法
ディベート	あるテーマに対して賛成・反対に分かれて、立論・反論といった論戦をし、競わせる手法
ワールド・カフェ	カフェのようなリラックスした雰囲気の中で1つのテーマで4～5人で対話を行う手法
ライティングディスカッション	教員が出した課題に対する自分の意見を用紙に書いて、別の人と交換する手法
ブレイン・ストーミング	課題について自由勝手に思いつきやアイデアを出し合い、そこから想像や連想を働かせていくことによって、さらに多くのアイデアを生み出していこうとするアイデア発散させる手法(ノートや付箋紙に書かせて発表)
TBL (チーム基盤型学習)	チームでテストを解かせる手法
その他の手法	
分類: C. 学生が2人で行うペアワーク	
方法	説明
ペアワーク	・ 短い文章について議論させる ・ 課題に対する関心についてインタビューさせる ・ 書かれた文章について批評・校正させる ・ 相手がやってきた課題に対して質問させる ・ 授業内容を要約して説明させる ・ 教員に対する質問を一緒に作らせる ・ 事例や練習問題を一緒に解かせる ・ お互いにテストをさせる ・ 教員からの質問に一緒に答えさせる ・ 授業ノートを比較させる ・ その他
分類: D. 実践的な学習	
方法	説明
ロールプレイング	実際の場面を想定して、学生にその場面における役割を与え、演技させる手法
模擬授業	教職課程科目等において、学生に授業計画を立てさせ実際に授業運営を行わせる手法
サービス・ラーニング	教室における学習と、地域社会の諸課題を解決するために用意された社会貢献活動を組み合わせた手法
フィールドワーク	教室から出て、現場を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者に聞き取り調査やアンケート調査を行い、現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を上げるための調査手法
その他の手法	

19. シラバスの提出について

シラバスの入力後は、画面上部また下部にある【一時保存】または【提出】ボタンの何れかをクリックしてください。画面上部にある【戻る】ボタンをクリックした場合、ブラウザの「戻る」や「閉じる」を行った場合は、入力した内容は保存されませんのでご注意ください。

＜画面イメージ＞

シラバス編集

戻る このシラバスは **未提出** の状態です。 **一時保存** **提出**

瑞穂学

開講年度	2023	学期	前期	シラバスコード	2K304020	科目コード	2K304020
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	

シラバス詳細

編集 状態の変更 このシラバスは **未提出** の状態です。 操作

ループシラバス

瑞穂学

開講年度	2023	学期	前期	シラバスコード	2K304020	科目コード	2K304020
担当教員							
備考							
配当	学部/学科	大学 人間科学部, 大学 人間科学部 心身健康科学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	—	単位	2	

(1) 一時保存する

入力したシラバスの内容を一時保存します。一時保存されたシラバスは次回編集時に自動的に読み込まれます。シラバス編集期間内であれば、提出ボタンを押すまで何度でも修正することが可能です。

(2) 提出する

入力した内容にてシラバスを提出します。提出されたシラバスはシラバス編集期間内であっても修正することはできません。

(3) 提出したシラバスを修正する

提出したシラバスを修正する場合は、シラバスの内容表示画面内にある【状態の変更】リストより「未提出」状態にすることにより、シラバス編集期間内であれば再度修正できるようになります。

【最後に】

作成頂いたシラバスは、本学教務委員会により確認させていただきます。場合によりましては、ご相談あるいは修正をお願いすることもございますこと、ご承知おきください。

特に、個々の科目に定められた「学位授与の方針との関連性」について、ご注意くださいよう願います。

シラバス（セルフ）チェックシート

シラバス提出前に、以下の項目に沿って☑を入れながら、担当科目のシラバスの内容を今一度ご確認ください。

- ☐ **変更不可項目**（科目ナンバー、授業概要、実務家教員関係項目、コース必修等、授業時間、学位授与方針との関係性）に変更を加えていないか。
- ☐ 「**愛知みずほ大学シラバス作成要綱**」に沿って記載しているか。
 - ☐ 「履修条件」の内容が適切か。
 - ☐ 「履修する上の留意点」の内容が適切か。
 - ☐ 「到達目標、評価方法、割合」の割合が整数となっているか。また、合計が 100 となるか。※小数点、%の利用は不可。
 - ☐ 「到達目標、評価方法、割合」の評価方法で、出席率、出席点等により評価を行っていないか。
 - ☐ 「教科書・参考書」を利用しない際に、「特になし」、「使用しない」等が記載されているか。※空白としない。
 - ☐ 「教科書・参考書」で 2 行目以降にナンバーが振られているか。
 - ☐ 学修計画の「学修内容」が試験を除き、半期科目は 15 週分、通年科目は 30 週分の授業回数を確保しているか。
 - ☐ 学修計画の「学修内容」で連続して同じテーマで講義を行う場合、授業回毎の詳細を記載しているか。
 - ☐ 学修計画の「自学自習課題・内容」が、科目の単位数に対して適切な時間を要するものとなっているか。
 - ☐ アクティブ・ラーニングを実施するとしている授業で、何れかの授業回にその内容がアルファベット大文字で記載されているか。
 - ☐ アクティブ・ラーニングを全授業回数の 1/3 以上実施することになっているか。
 - ☐ 本授業科目に関連する実務経験（職歴）の有無が明記してあるか。
 - ☐ 「有」とした場合、実務家としての経験が、当該授業科目にどう活かされているのか、授業との関連性が学生にも理解できるような表記となっているか。
- ☐ 課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法が記載されているか。
- ☐ 資格取得に関係する科目については、届け出ているシラバスの内容を変更していないか。
- ☐ 「**学位授与方針との関係性**」に沿った授業内容となっているか。
- ☐ 記入漏れがないか。